

令和6年 新年の挨拶

政策局長 立川博行

2024年の初春を洋上で、ご家庭で迎えられた組合員の皆さま、
そしてご家族の皆さまに、謹んで新年のお慶び申し上げます

本年は十二支で言いますと辰年ですが、干支で言いますと甲辰(きのえ・たつ)となります。
そして「甲辰」の「甲」(音読みの、「こう」・訓読みの、「きのえ」)には、甲(こう)、乙(おつ)、丙(へい)、丁(てい)といった十干(じっかん)の一部で、「草木の芽生え」といった意味があるとの事です。

そして「辰」は、十二支の中では唯一の架空の生き物で、龍(竜)を意味し、水や海の神として祀られてきましたし、権力や隆盛の象徴であると言われています。

この二つの組み合わせである「甲辰」には、「これまで積み上げてきた活動が大きく芽を吹いていく」といったことを表しているのではないかと考えています。そしてそのような年となるよう、直面している諸問題、諸課題の解決・改善に向けた諸活動を展開していきます。

その諸活動の一端を申し上げますと、四面を海洋に囲まれたわが国において、船員と船舶は海上物資輸送、旅客輸送ならびに漁船漁業による水産食料供給により国民生活の維持・発展に寄与していますが、少子高齢化の進行により以前にも増して、次世代を担う人材の確保・育成は各部門の共通する喫緊の課題です。

そしてこの問題は多くの産業においても共通の課題となっていることから、将来に向けた活動として、海運・水産業界を広く国民に知らせ認知度を上げるための海事広報、海事思想の普及が重要です。

海に親しむ活動として本組合が行っている小・中学生を対象とした体験乗船や地引き網体験などを通じ、船員の確保・育成に向け一定の役割を果たしていきます。

そして、船員養成・教育機関の維持・定員拡大、それに必要な予算の確保に向けた取り組みを展開して行かなければなりません。

その他にも、船員税制、情報通信インフラの整備、海賊略奪行為への対応、フェリー・旅客船の維持存続問題など、各部門における多種多様な諸問題、諸課題に直面しています。我々は、その解決・改善に向け組合員、職場委員そして執行部のさらなる団結で取り組んでまいりますので、組合員の皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

最後に組合員の皆さまの航海の安全と、ご自身、ご家族のご健康を祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。

「海員だより」